

② 保護者

	診断項目	肯定率	昨年度比	
1	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	62.5%	-9.7%	★
2	この学校には、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。	75.0%	-13.9%	★★
3	子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。	75.0%	2.8%	
4	学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。	75.0%	2.8%	
5	学校の生徒指導の方針に共感できる。	62.5%	-26.4%	★★
6	学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	75.0%	-19.5%	★★
7	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	75.0%	-2.8%	
8	先生は子どものことを理解してくれている。	75.0%	-8.3%	★
9	文化祭や体育祭等の学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう工夫されている。	75.0%	8.4%	☆
10	子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。	62.5%	-15.3%	★★
11	学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	87.5%	9.7%	☆
12	生徒指導面や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。	75.0%	-8.3%	★
13	学校は、子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。	75.0%	-19.4%	★★
14	学校は、生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。	75.0%	-19.5%	★★
15	学校は、教育情報について、提供の努力をしている。	75.0%	-8.3%	★
16	地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。	75.0%	-13.8%	★★
17	学校では、子どもに関する個人情報を守られている。	75.0%	-25.0%	★★
18	学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる。	50.0%	-44.4%	★★
19	学校のホームページやメールマガジンを活用している。	62.5%	-4.1%	
20	この学校の授業参観や学校行事などに参加したことがある。	62.5%	29.1%	☆☆
21	P T A 活動には参加しやすい。(※令和4年度は割愛)			

	R03	R02	R01	H30	H29	H28
	72.2%	56.7%	62.0%	61.3%	95.3%	97.3%
	88.9%	98.5%	93.7%	98.1%	95.3%	97.3%
	72.2%	74.6%	72.7%	65.1%	79.0%	69.0%
	72.2%	74.6%	69.6%	80.0%	75.2%	74.1%
	88.9%	88.1%	87.2%	89.4%	86.7%	86.6%
	94.5%	83.6%	88.6%	90.5%	97.1%	90.3%
	77.8%	79.1%	80.8%	92.2%	92.2%	
	83.3%	86.6%	82.1%	84.0%	85.8%	82.3%
	66.6%	82.1%	79.7%	83.8%	85.7%	73.5%
	77.8%	83.6%	82.3%	83.0%	81.1%	79.6%
	77.8%	86.6%	83.3%	85.7%	84.6%	80.5%
	83.3%	80.6%	72.7%	80.0%	76.2%	77.0%
	94.4%	83.6%	91.0%	82.9%	78.3%	79.6%
	94.5%	92.5%	87.2%	85.7%	86.7%	87.6%
	83.3%	92.5%	83.5%	84.6%	89.6%	79.6%
	88.8%	88.1%	81.0%	86.8%	69.8%	75.9%
	100.0%	94.0%	94.9%	94.2%	94.2%	92.9%
	94.4%	86.6%	81.0%	82.7%	81.0%	74.3%
	66.6%	65.7%	65.8%	68.3%	68.6%	74.3%
	33.4%	22.4%	46.8%	44.8%	36.4%	30.1%
	22.3%	13.4%	23.7%	33.7%	29.9%	22.1%

③ 教員

	診断項目	肯定率	昨年度比	
1	生徒は、桃谷高校に入学してよかったと思っている。	96.3%	-1.1%	
2	この学校は、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。	92.6%	5.8%	☆
3	わかりやすく楽しい授業を心がけている。	100.0%	0.0%	
4	学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている。	100.0%	0.0%	
5	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	96.3%	-3.7%	
6	家庭連絡をきめ細かく行い生徒指導にいかしている。	88.9%	-0.6%	
7	生徒の問題行動がおきた時、組織的に対応できる体制が整っている。	85.2%	3.6%	
8	この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。	100.0%	2.7%	
9	学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。	100.0%	13.2%	☆☆
10	学校として、生徒が達成感を得られるよう、部活動の活性化について工夫している。	77.8%	1.5%	
11	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。	96.3%	1.5%	
12	「生きる力」を育み、自らの将来像を描くことができるように系統的なキャリア教育を行っている。	81.5%	5.1%	☆
13	生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	92.6%	5.8%	☆
14	教育活動において、生徒に社会規範を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。	85.2%	14.1%	☆☆
15	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、職員間で話し合っている。	88.9%	15.3%	☆☆
16	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう、役割分担が明確化されている。	85.2%	8.9%	☆
17	いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。	100.0%	7.9%	☆
18	個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。	96.3%	6.8%	☆
19	この学校では、学習や活動がしやすいように施設や設備が整っている。	70.4%	17.7%	☆☆
20	関連機関との連携を深め、教育活動全般に生かしている。	96.3%	4.2%	
21	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。	88.9%	4.7%	
22	学校運営に教職員の意見が反映されている。	85.2%	8.8%	☆
23	各分掌の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	77.8%	-1.1%	
24	職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。	81.5%	10.4%	☆☆
25	この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。	85.2%	-12.1%	★★
26	校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。	85.2%	6.3%	☆
27	全体として、初任者を育てる体制ができています。	63.0%	-13.3%	★★
28	教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。	81.5%	10.5%	☆☆

	R03	R02	R01	H30	H29	H28
	97.4%	90.9%	86.7%	93.8%	88.1%	89.6%
	86.8%	97.7%	95.6%	96.9%	95.2%	93.8%
	100.0%	95.5%	100.0%	96.9%	97.6%	95.8%
	100.0%	86.4%	93.3%	90.6%	88.1%	89.6%
	100.0%	90.9%	86.7%	90.6%	85.7%	91.3%
	89.5%	86.4%	75.0%	68.8%	83.3%	80.9%
	81.6%	84.1%	82.2%	68.8%	76.2%	68.8%
	97.3%	93.2%	84.4%	71.9%	76.2%	81.3%
	86.8%	86.4%	80.0%	71.9%	76.2%	72.9%
	76.3%	75.0%	57.8%	59.4%	54.8%	47.9%
	94.8%	90.9%	86.7%	84.4%	76.2%	81.3%
	76.4%	79.5%	64.4%	62.5%	64.3%	60.4%
	86.8%	86.4%	86.7%	84.4%	78.6%	79.2%
	71.1%	77.3%	68.9%	71.9%	61.9%	68.1%
	73.6%	86.4%	75.6%	59.4%	52.4%	54.2%
	76.3%	75.0%	71.1%	54.8%	64.3%	43.8%
	92.1%	90.9%	86.7%	81.3%	66.7%	
	89.5%	93.2%	80.0%	68.8%	61.9%	77.1%
	52.7%	47.7%	44.4%	25.0%	28.6%	27.1%
	92.1%	84.1%	71.1%	75.0%	76.2%	60.4%
	84.2%	81.8%	77.8%	62.5%	76.2%	66.7%
	76.4%	65.9%	55.6%	25.0%	54.8%	45.8%
	78.9%	79.5%	80.0%	56.3%	78.6%	50.0%
	71.1%	72.7%	51.1%	40.6%	52.4%	39.6%
	97.3%	86.4%	77.8%	78.1%	81.0%	68.8%
	78.9%	84.1%	86.8%	64.5%	73.8%	72.9%
	76.3%	79.5%	73.7%	74.2%	73.8%	
	71.0%	81.8%	76.3%	80.6%		

5. 考察

【全体】

今年度も生徒・保護者・教職員とも自己診断に Google フォームを活用した。ただし、提出率を上げるために保護者については調査用紙との併用で行い、生徒についても必要に応じて調査用紙も用意した。また、例年 11 月実施としているが、今回は前期卒業生も先行して 9 月末に実施した。これらの取り組みにより生徒、保護者とも提出率は上昇したが、総数は残念ながら大きく伸ばすことはできなかった。閉部に伴う在籍数の減少もあるが、特にここ数年は編・転選考による入学者のみであり、大半が成人生徒になったことから保護者の協力が得にくかったと考える。最終年度の前期は提出総数がさらに少なくなるのは致し方ないとしても、最後まで提出率を上げるために今年度同様にさまざまな手段を講じていく予定である。

全体的傾向は生徒・教員については、例年と同様に肯定率の高い項目が増加する結果であったが、保護者については肯定率 80%を超える項目が 11 項目→1 項目と大幅に減少した。なお、いずれも総数が少ないため、1 人の増減で大幅に率に変化する結果であったことには留意したい。

① 生徒

- ・肯定率 80%を超える項目が 22 項目中 18 項目で全体の 8 割を占めた。
- ・診断項目 1 については、今年度は昨年度より 5.3 ポイント上昇した。ほかの授業や各種指導、学校生活に関する診断項目が肯定率と比べると大幅に低いが、現在在籍の生徒はこれまでより困難を持っている生徒が多く、生徒の内面や家庭環境面の悩みの多さの要因が考えられる。
- ・授業に関する項目は非常に肯定的であった。診断項目 6 こそ肯定率が若干減少したが、そのほかは 90%を超えており、先生方のきめ細かい取り組みが評価されたと考える。また、従来肯定率が 50%を切っていた診断項目 7 について、昨年度に続き今年度も上昇が認められた。また、今年度新たに入った 1 人 1 台端末に関する診断項目 22 も 75.8%と診断項目 6 と同水準であり、ICT の活用や新しい学習指導要領を見据えた教員の教材研究や意見交換などが良い形で表れたものとする。最終年度も引き続きこの流れを推進して行きたい。
- ・生徒指導に関する項目は、すべて肯定率 80%以上で昨年度よりさらに上昇していた。特に診断項目 9 や 14 については昨年度から大幅に上昇した。在籍生徒が減ったこともあるが、授業以外の場面でも先生方のきめ細かい指導の成果が表れているものとする。

② 保護者

・全体でも触れたとおり、肯定率が80%を超える項目が11項目→1項目と大幅に減少した。この原因として今回提出数が8であり、率変動が大きくなったことが原因であると考え。肯定率80%には届いていないものの、ほとんどの項目で肯定率は62.5%または75.0%であり、一定の評価は頂いていると考える。また、この数年は編転生のみを受け入れて、保護者の学校に対するニーズの変化もあるのではないかと推察される。

③ 教員

・学習面の診断項目3、4については、昨年度に引き続きすべての教員が肯定的に回答している。生徒数の減少で総合的な教員力が試される年度であったが、しっかりと対応する姿勢が表れていると考える。

・学校行事に関する診断項目9の肯定率が13.2ポイント増ですべての教員が肯定的に回答している。こちらも生徒数の減少でこれまでのやり方が通用しない中で工夫をした結果と考える。

・社会規範に関する診断項目14と人権に関する診断項目15がともに肯定率が14～15ポイント上昇した。特に項目15は前年度に肯定率が大きく下落したため、今年度は重点課題としていたが、その成果が表れたと考える。

・施設・設備の診断項目19は前年度から肯定率70.4ポイントで前年度から17.7ポイント上昇した。各教室へのプロジェクタの設置が進んだことや教育庁による無線AP設置が進んだことが要因と考える。

・学校運営の面での診断項目22と24の肯定的評価は今年度80%以上に上昇した。前年度に課題として挙げていた項目であるが、閉部のための取り組みを進めていくうえで、教員の意見を可能な限り反映し、各種会議をより円滑に機能させていくことできている結果と考える。

・服務規律に関する診断項目25は前年度の97.3%から85.2%、13.3ポイントと大幅に肯定率が減少した。80%以上の肯定率を維持しているが、当然100%であるべき項目と考えているので、今後閉部までの短い期間ではあるが改善すべきところである。

・初任者を育てる体制について診断項目27は前年度から13.3ポイントと大幅に肯定率が減少した。今年度初任者の配属はなかったので肯定率低下はやむを得ないところである。ただ2年目、3年目などの若手教員に対しての育てる体制が十分であったかと置き換えて、閉部までの短い期間ではあるがしっかりとフォローアップをしていきたい。

以上